

第四回 全国俳句大会 最終選句のご紹介

選句、選評 佐々木 建成（俳人・天宮俳句会名誉顧問）

自由題部門

入賞					優秀賞		会長賞		受賞名	
関西	関西	関東	東北	東北	中国四国	東北	九州		支部名	
前川 祐助	二宮 健	鈴木 治嗣	清水 孝	小山 昭雄	川上 康登	市川 悦子	久保 修一		会員氏名 (敬称略)	
寝かすやや胸打つ団扇静かなり	写経してコロナ禍去れと半夏生	緑陰を妻に従い散歩する	隠沼のモノに見せたき未草	持ち帰るドーナツ八つ糺祭忌	(選評) 「選評」 新型コロナ関連の句を正面から詠んだ。「マスク」(本来は冬の季語)は季語性を持たない扱いになる。	(選評) 「選評」 下町に生まれ下町に育った男の心意気が「ざらりと生きて」に表れ、「今年酒」の季語が「粋に利いてい	(久保さんより、受賞のお喜びの声) この度、大変な賞を頂きありがとうございます。また、初めてこの句で喜びました。驚きの方も実感です。俳句は平成一五の始めにこの賞を機会にさらに精進専念したいと存じます。		(選評) 「選評」 陶器を窯出したときに素材と釉薬の収縮度の違いから釉薬の表面に細かなひびが出来る時に発する「秋高し」の季語の秋の青空と呼応しているかのような「秋高し」の季語の秋の靑旋が見事だ。	窯出しのはじける音や秋高し

《選句全体についての感》

主催者のご尽力と会員の皆さんの熱意により、前回より投句者が増え、お生り、オリジンナリテイの豊かな作品が生まれるなど句のレベルが漸次上がつてきていると感ずる。今後のご精進をお祈りしたい。

《選者の佐々木先生より、応募者へのアドバイスがありました》

（一）二つ以上の季語が無意識に使われている句が多かった。

（二）中七が守られておらず、中八の間延びしている句が見られた。

佐々木 建成